

令和3年度年間授業計画

教科:理 科 科目:化学基礎 校内科目名:化学基礎
 教科担当者: 鎌田 裕明 富樫 良隆

対象年次:1

2単位

使用教科書・教材

教科書:
 「高等学校 改訂 化学基礎」(第一学習社)

補助教材:
 「ネオパルノート 改訂 化学基礎」(第一学習社)
 「レポート&チャージ 化学基礎ドリル」(実教出版)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 序章 化学と人間生活 第I章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 (分離/化合物/単体/元素/原子/同位体) 期末考査まで 第2節原子の構造と元素の周期律 (電子配置/周期律/周期表) 第3節 物質と化学結合 (イオン/分子/金属)	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・身の回りの物質を知ることや、身近な生活の中に、化学現象が生かされていることを知ることで、化学の学習の必要性を認識する。 ・実験に取り組み、観察力、科学的探究能力・態度を養うとともに、表現力を養う。	(観点) ①基本的原理・法則の理解ができているか。 ②観察、実験を通して記録整理ができたか。 ③自然の事物・現象に関心・意欲をもち、問題を見出し考察しているか。 (方法)定期考査、小テスト、レポート、授業態度、発言、出席状況を総合的に判断し評価する。	22
2 学期	<2学期> 中間考査まで 第II章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 (原子量/分子量/式量/物質質量/濃度/溶解度) 期末考査まで II章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 (化学反応式/量的関係/諸法則) 第2節 酸・塩基の反応 (酸/塩基/強弱と水素イオン濃度/pH/中和と塩)	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・身の回りの物質を知ることや、身近な生活の中に、化学現象が生かされていることを知ることで、化学の学習の必要性を認識する。 ・実験に取り組み、観察力、科学的探究能力・態度を養うとともに、表現力を養う。	(観点) ①基本的原理・法則の理解ができているか。 ②観察、実験を通して記録整理ができたか。 ③自然の事物・現象に関心・意欲をもち、問題を見出し考察しているか。 (方法)定期考査、小テスト、レポート、授業態度、発言、出席状況を総合的に判断し評価する。	28
3 学期	<3学期> 学年末考査まで II章 物質の変化 第2節 酸・塩基とその反応 (中和の量的関係/中和滴定/中和滴定とpHの変化) 第3節 酸化還元反応(酸化と還元/酸化数と酸化還元反応/酸化剤・還元剤と金属のイオン化傾向/酸化還元反応の利用) 定期考査の範囲はあくまで予定です。	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・身の回りの物質を知ることや、身近な生活の中に、化学現象が生かされていることを知ることで、化学の学習の必要性を認識する。 ・実験に取り組み、観察力、科学的探究能力・態度を養うとともに、表現力を養う。	(観点) ①基本的原理・法則の理解ができているか。 ②観察、実験を通して記録整理ができたか。 ③自然の事物・現象に関心・意欲をもち、問題を見出し考察しているか。 (方法)定期考査、小テスト、レポート、授業態度、発言、出席状況を総合的に判断し評価する。	20
			合計	70

令和3年度年間授業計画

教科:理 科 科目:化学基礎 校内科目名:化学基礎
 教科担当者: 小林 光明 富樫 良隆

対象年次:2

2単位

使用教科書・教材

教科書:
 「高等学校 改訂 化学基礎」(第一学習社)

補助教材:
 「ネオパルノート 改訂 化学基礎」(第一学習社)
 「リポート&チャージ 化学基礎ドリル」(実教出版)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 序章 化学と人間生活 第I章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 (分離/化合物/単体/元素/原子/同位体) 期末考査まで 第2節原子の構造と元素の周期律 (電子配置/周期律/周期表) 第3節 物質と化学結合 (イオン/分子/金属)	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・身の回りの物質を知ることや、身近な生活の中に、化学現象が生かされていることを知ることで、化学の学習の必要性を認識する。 ・実験に取り組み、観察力、科学的探究能力・態度を養うとともに、表現力を養う。	(観点) ①基本的原理・法則の理解ができているか。 ②観察、実験を通して記録整理ができたか。 ③自然の事物・現象に関心・意欲をもち、問題を見出し考察しているか。 (方法)定期考査、小テスト、レポート、授業態度、発言、出席状況を総合的に判断し評価する。	22
2 学期	<2学期> 中間考査まで 第II章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 (原子量/分子量/式量/物質質量/濃度/溶解度) 期末考査まで II章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 (化学反応式/量的関係/諸法則) 第2節 酸・塩基の反応 (酸/塩基/強弱と水素イオン濃度/pH/中和と塩)	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・身の回りの物質を知ることや、身近な生活の中に、化学現象が生かされていることを知ることで、化学の学習の必要性を認識する。 ・実験に取り組み、観察力、科学的探究能力・態度を養うとともに、表現力を養う。	(観点) ①基本的原理・法則の理解ができているか。 ②観察、実験を通して記録整理ができたか。 ③自然の事物・現象に関心・意欲をもち、問題を見出し考察しているか。 (方法)定期考査、小テスト、レポート、授業態度、発言、出席状況を総合的に判断し評価する。	28
3 学期	<3学期> 学年末考査まで II章 物質の変化 第2節 酸・塩基とその反応 (中和の量的関係/中和滴定/中和滴定とpHの変化) 第3節 酸化還元反応(酸化と還元/酸化数と酸化還元反応/酸化剤・還元剤と金属のイオン化傾向/酸化還元反応の利用) 定期考査の範囲はあくまで予定です。	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・身の回りの物質を知ることや、身近な生活の中に、化学現象が生かされていることを知ることで、化学の学習の必要性を認識する。 ・実験に取り組み、観察力、科学的探究能力・態度を養うとともに、表現力を養う。	(観点) ①基本的原理・法則の理解ができているか。 ②観察、実験を通して記録整理ができたか。 ③自然の事物・現象に関心・意欲をもち、問題を見出し考察しているか。 (方法)定期考査、小テスト、レポート、授業態度、発言、出席状況を総合的に判断し評価する。	20
			合計	70

令和3年度年間授業計画

教科:理 科 科目:物理基礎 校内科目名:物理基礎
 教科担当者: 加藤 友啓 井上 翔

対象年次:2

2単位

使用教科書・教材

教科書:
 数研出版
 「高等学校改訂新編物理基礎」

補助教材:
 数研出版
 改定「リードLightノート 物理基礎」

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 第I章 力と運動 第1節 物体の運動 第2節 力と運動の法則	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	(観点) 基本的な概念や原理・法則が理解できているか。探究の過程を通して、科学的に考える力を習得したか。 (方法) 定期考査、小テスト、提出物、授業態度、出席状況を総合的に判断して評価する。	22
2 学期	<2学期> 第II章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー 第2節 熱とエネルギー 第III章 波 第1節 波の性質	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	(観点) 基本的な概念や原理・法則が理解できたか。探究の過程を通して、科学的に考える力を習得したか。 (方法) 定期考査、小テスト、提出物、授業態度、出席状況を総合的に判断して評価する。	28
3 学期	<3学期> 第2節 音波 第IV章 電気 第1節 電荷と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	(観点) 基本的な概念や原理・法則が理解できたか。探究の過程を通して、科学的に考える力を習得したか。 (方法) 定期考査、小テスト、提出物、授業態度、出席状況を総合的に判断して評価をする。	20
			合計	70

令和3年度年間授業計画

教科:理 科 科目:生物基礎 校内科目名:生物基礎
 教科担当者: 加藤 友啓 小林 光明 富樫 良隆

対象年次:2

2単位

使用教科書・教材

教科書:

「改訂版 生物基礎」(数研出版)

補助教材:

「三訂版 フォトサイエンス生物図録」
 (数研出版)

「改訂版 生物基礎 学習ノート」
 (数研出版)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学 期	<1学期> (1) 生物と遺伝子 ア生物の特徴 (ア) 生物の共通性と多様性 (イ) 細胞とエネルギー イ遺伝子とその働き (ア) 遺伝情報とDNA (イ) 遺伝情報の分配 (ウ) 遺伝情報とタンパク質の合成 ウ生物と遺伝子に関する探究活動	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	1 生物に関する基本的な概念、現象、法則性が理解できているか。 2 実験、観察を通して、生物を探究する方法、考察力を習得しているか。 3 生物学的な見方、考え方が身についているか。	24
2 学 期	<2学期> (2) 生物の体内環境の維持 ア生物の体内環境 (ア) 体内環境 (イ) 体内環境の維持の仕組み (ウ) 免疫 イ生物の体内環境の維持に関する探究活動	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	1 生物に関する基本的な概念、現象、法則性が理解できているか。 2 実験、観察を通して、生物を探究する方法、考察力を習得しているか。 3 生物学的な見方、考え方が身についているか。	28
3 学 期	<3学期> (3) 生物の多様性と生態系 ア植生の多様性と分布 (ア) 植生と遷移 (イ) 気候とバイオーム イ生態系とその保全 (ア) 生態系と物質循環 (イ) 生態系のバランスと保全 ウ生物の多様性と生態系に関する探究活動	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	1 生物に関する基本的な概念、現象、法則性が理解できているか。 2 実験、観察を通して、生物を探究する方法、考察力を習得しているか。 3 生物学的な見方、考え方が身についているか。	18
			合計	70